(Mailing date: October 23, 2007)

発送番号:531779 発送日:平成19年10月23日 整理番号:H300308

拒絕理由通知書

(Notice of the Rejection)

(Japanese Patent Application No. 2003-115871)

特許出願の番号

特願2003-115871

起案日

平成19年10月17日

特許庁審査官

小林 大介

9848 5000

特許出願人代理人

平木 祐輔 様

適用条文

第29条第2項、第36条

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものです。これについて意見が ありましたら、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出してくだ さい。

理 由

- 1. この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前に日本国内又は外国にお いて、頒布された下記の刊行物に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆 に利用可能となった発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野に おける通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、 特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。
- 2. この出願は、特許請求の範囲の記載が下記の点で、特許法第36条第6項第 2号に規定する要件を満たしていない。

(引用文献等については引用文献等一覧参照) 記

理由1. について

- 請求項1,3-5,7-10
- 引用文献 1-5
- 備考

引用文献1には、PRの拘束長の両側に残る符号間干渉を補償する6状態ビタ ビ復号PR(0,1,1,0)方式が記載されている(引用文献1段落[002 4]参照)。

ビタビ復号の期待値を補正する構成は、引用文献2及び3にもみられるように 周知技術であるので(特に、引用文献2段落[0014]-[0016]、引用 文献3 [図7] 参照)、引用文献1記載のPR(0,1,1,0)方式を該周知 の構成に適用することは当業者が適宜なし得ることである。

また、引用文献4に記載された、最尤復号の目標値を補正する構成を備え、目

標値の補正量を考慮した再生信号を用いてクロックを生成する構成(引用文献4 段落【0051】-【0055】参照)を、引用文献1記載の発明に付加するこ とは当業者が容易になし得ることである。

さらに、所望の間隔のマークを使用せずに位相誤差を求める構成は、引用文献 5にもみられるように周知技術であり、最小ランレングス長の信号は振幅も低く ノイズに弱いことは広く知られた課題であるので、当該周知技術を引用文献1記 載の発明に適用する際に、最小ランレングス長のマークからの位相情報を使用せ ずにクロックを生成する構成とすることは当業者が容易になし得ることである。

引用文献等一覧(List of the citations)

- 1. 特開2000-030376号公報
- 2. 特開2002-269924号公報
- 3. 特開平9-330565号公報
- 4. 特開2002-175673号公報
- 5. 特開2001-035095号公報

理由2. について

請求項7には「連続するN'ビット(N'はNN+1≦N'≦Nを満たす)」 と記載されているが、当該記載の技術的意味が不明である。

(「NN」が何を指す変数であるのかを明らかにされたい。また、該「N」は「 M」の誤記と思われる。)

よって、請求項7-10に係る発明は明確でない。

<拒絶の理由を発見しない請求項>

請求項2、6に係る発明については、現時点では、拒絶の理由を発見しない。 拒絶の理由が新たに発見された場合には拒絶の理由が通知される。

先行技術文献調査結果の記録

調査した分野 IPC G11B20/10 G11B20/14 H03M13/00

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。

この拒絶理由通知の内容に関するお問い合わせ、または面接のご希望がござい

ましたら下記までご連絡下さい。

特許審査第四部 情報記録 (データ記録) 小林 大介

TEL. 03 (3581) 1101 内線3590

FAX. 03 (3580) 6906